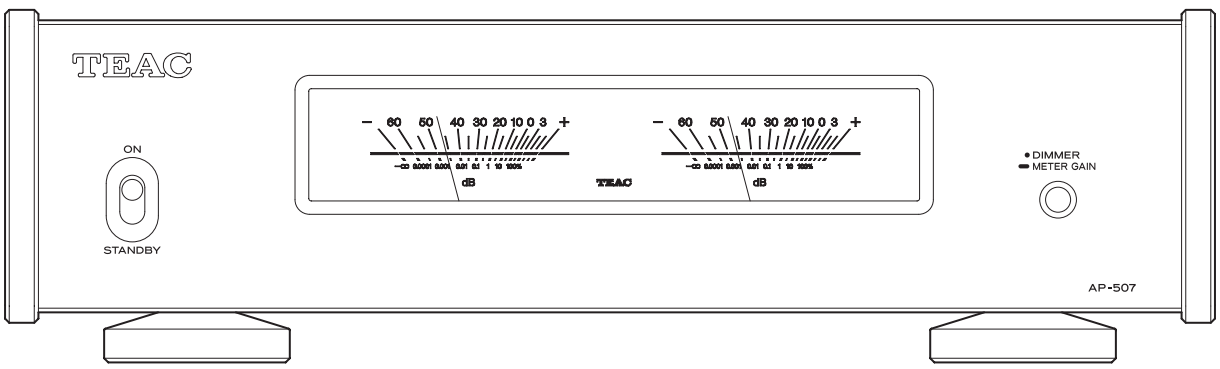
TEAC

AP-507

ステレオパワーアンプ

取扱説明書

ティアック製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みください。
また、お読みになったあとは、いつでも見られるところに大切に保管してください。
末永くご愛用くださいますよう、お願い申し上げます。



D01436601A

目次

付属品 2
お使いになる前に 3
　設置について 3
お手入れ 3
ユーザー登録について 3
安全にお使いいただくために 4
各部の名前とはたらき (フロントパネル) 6
各部の名前とはたらき (リアパネル) 7
スピーカーの接続 8
　スピーカーケーブルについて 8
　接続のしかた 8
接続 9
　出力モードを STEREO で使う 9
　出力モードを BI-AMP で使う 10
　出力モードを BTL で使う 11
　本機の電源を外部機器に連動させる
　（トリガー機能） 12
基本操作 13
　電源オン 13
　電源オフ 13
　ディマー 14
　レベルメーターの動作を切り換える 14
　オートパワーセーブ 15
　各種設定を工場出荷時の設定に戻す 15
困ったときは 16
仕 様 17
　アンプ部 17
　外部コントロール 17
　一 般 17
　付属品 17

記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

付属品

万一付属品に不足や損傷がありましたら、お買い上げになった販売店、または弊社 AV お客様相談室 (裏表紙に記載) にご連絡ください。

電源コード × 1
フット用クッション × 3
レベルメーター用除電クロス × 1
取扱説明書 (本書、保証書付き) × 1

レベルメーター用除電クロスについて
レベルメーター一部分が静電気を帯びると、電源をスタンバイにしても指示針が –∞ 付近に戻らなくなることがあります。このようなときは、付属の除電クロスをメーター部に当てて、静電気を除去してください。

音のエチケット
楽しい音楽も、場合によっては大変気になるものです。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまうことがあります。
適当な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドホンを使用するなどして、快適な生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



お使いになる前に

⚠ 設置の注意

- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、温度が高くなるところに置かないでください。また、アンプなど熱を発生する機器の上には置かないでください。変色や変形、故障の原因となります。
- UD-507 や PD-505T など他の Reference500 シリーズとの重ね置きは問題ありません。但し、発熱により保護回路が動作し、突然音が出なくなった場合は、放熱をよくするために本機を上段に置くか、壁や他の機器との間を少し離して置いてください。
- CD、CD-R、カセットテープ、他のオーディオ機器など、熱に弱いものを本機の上に置かないでください。破損の恐れがあります。
- 上に布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上に置かないでください。本機が過熱したり破損したりする恐れがあります。

設置について

本機の底面には、鋼鉄製のフットを微小な隙間を持たせた半固定状態で装備しています。そのため、製品を持ち上げた際には、フットは底面からわずかに動きます。
本体設置時に、筐体がフットから不要なストレスを受けることなく、フットの上に載る構造となっています。

- フットが製品底面からわずかに動きますが、不良ではありません。
- 設置面を傷付けたくない場合は、フットスタンドの裏に付属のフット用クッションを貼ってお使いください。
- 本機のトップパネルは半固定状態で装着されています。パネルがわずかに動きますが、不良ではありません。

お手入れ

トップカバーやパネル面の汚れは、薄めた中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。
化学ぞうきんやベンジン、シンナーなどで拭かないでください。表面を傷める原因となります。

⚠ お手入れは安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

ユーザー登録について

TEAC のウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。
https://teac.jp/jp/signup

愛情点検

電源コードや本体に異常がないか、定期的に点検してください。
内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。
5 年に 1 度は、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) に内部の点検をご依頼ください。費用についてはお問い合わせください。

安全にお使いいただくために

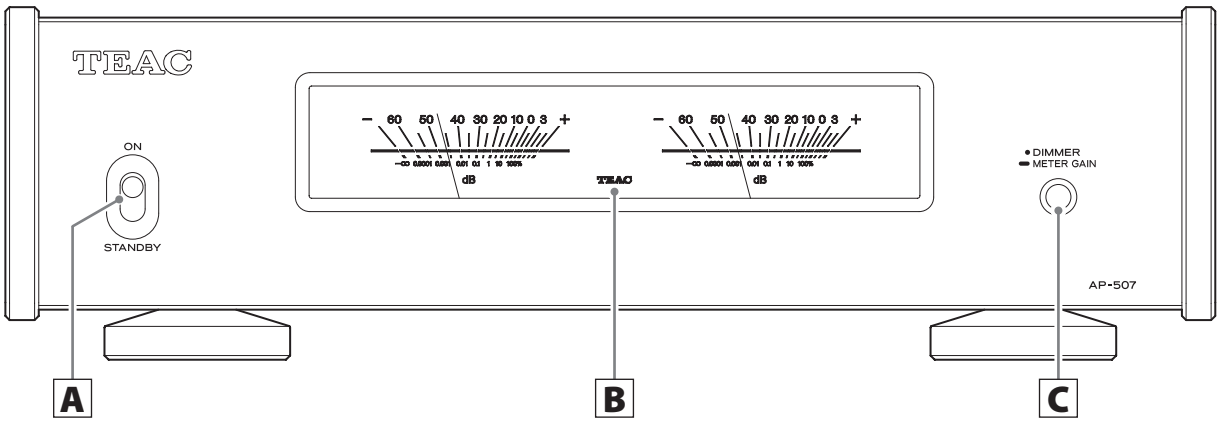
製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

⚠	**警告** **以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。**
 **電源プラグをコンセントから抜く**	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に修理をご依頼ください。
 **禁止**	**電源コードを傷つけない** **電源コードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)に交換をご依頼ください。
	付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。
	交流100ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(3 cm以上)離して置く **ラックなどに入れるときは、機器の天面から5cm以上、背面から10cm以上のすきまをあける** すきまをあけないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	この機器の通風孔などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。
	イヤホンやヘッドホンからの過度の音圧は、聴覚障害の原因となります。聴覚障害の可能性を防ぐために、長時間，高音量で聴かないで下さい。
 **指示**	**電源プラグにほこりをためない** 電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。 定期的(年1回くらい）にACアダプターの電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
 **禁止**	**機器の上に花びんや水などが入った容器を置かない** 内部に水が入ると火災・感電の原因となります。

⚠	**警告** 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

⚠	**注意** 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源のスイッチをスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続ケーブルを外す** ケーブルが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
 指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のケーブルを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
	フロントパネルの左右にある取っ手状の部品は装飾です。これに指を入れたり、これを持って本機を持ち運んだりしないでください。
	この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障・火災・感電の原因となります。
 禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やけがの原因となることがあります。
	電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
 禁止	**濡れた手で電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。

各部の名前とはたらき (フロントパネル)



A スタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON)

電源をスタンバイ / オンにします。

B レベルメーター

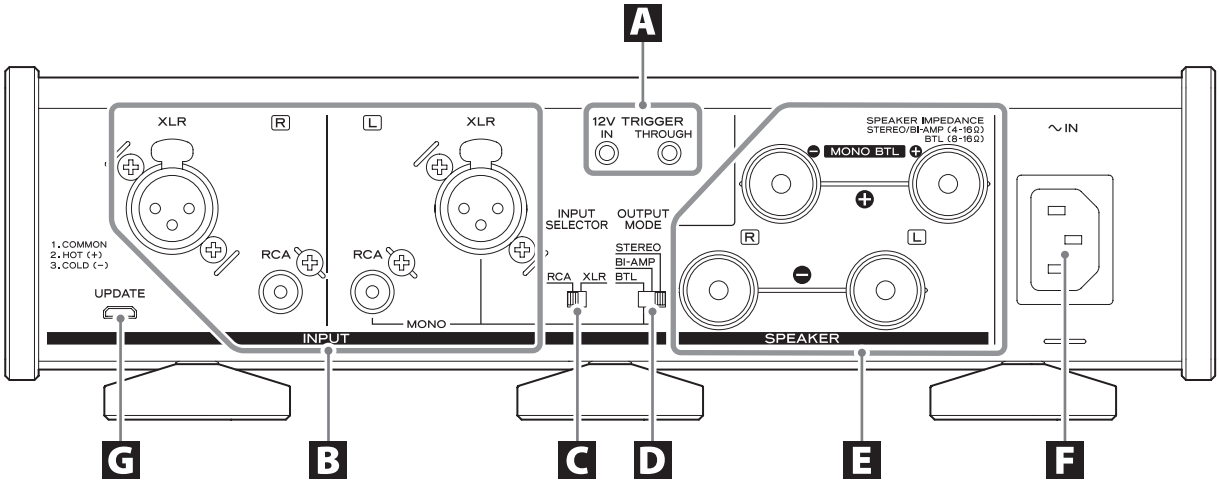
出力レベルを表示します。

C ディマー / メーターゲインボタン (DIMMER/METER GAIN)

ボタンを押すたびに、レベルメーターの明るさが変わります。(14 ページ)

ボタンを 3 秒間長押しするたびに、レベルメーターの動作が切り換わります。(14 ページ)

スタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) と一緒に操作することによって、オートパワーセーブの設定変更と各種設定を工場出荷時の設定に戻します。(15 ページ)



A トリガー端子 (12V TRIGGER)

外部から電源をコントロールするための端子です。この端子を使わないときは何も接続しないでください。(12 ページ)

接続には、市販のモノラルミニプラグケーブルをお使いください。

B アナログ音声入力端子 (INPUT)

ステレオのアナログ音声を入力します。この端子にプリアンプまたはプリアンプ機能がある DAC などの音声出力端子を接続してください。

- 本機の XLR 端子は「2 番 HOT」です。

接続には市販のオーディオケーブルをお使いください。

RCA　: RCA ケーブル
XLR　: XLR ケーブル

出力モードを STEREO で使う場合

本機の R 端子と音声出力機器の R 端子、本機の L 端子と音声出力機器の L 端子をそれぞれ接続してください。(9 ページ)

出力モードを BI-AMP、BTL で使う場合

本機の L 端子に音声出力機器の L 端子または R 端子を接続してください。本機の R 端子は使用しません。(10、11 ページ)

C 入力切り換えスイッチ (INPUT SELECTOR)

RCA と XLR の入力を切り換えます。

⚠ 本機の電源がオンのときは、切り換えないでください。
突然大きな音が出て、聴力障害やスピーカー破損の原因となることがあります。

D 出力モードスイッチ (OUTPUT MODE)

出力モードを設定します。

STEREO：　ステレオパワーアンプ (9 ページ)
BI-AMP：　モノラル バイアンプ (10 ページ)
BTL：　モノラルパワーアンプ (11 ページ)

⚠ 出力モードを切り換えるときは、必ずスピーカー接続を外し、モードを切り換えてから接続し直してください。

E スピーカー端子 (SPEAKER)

対応しているスピーカーの公称インピーダンスは、出力モードが STEREO または BI-AMP のときは 4 Ω から 16 Ω、BTL のときは 8 Ωから 16 Ωです。

接続には、市販のスピーカー専用ケーブルをお使いください。

F 電源インレット (～ IN)

付属の電源コードを差し込んでください。
全ての接続が終わってから、電源プラグを AC100V の電源コンセントに差し込んでください。

- 電源プラグを電源コンセントに差し込む向き (極性) によって、音質が変わることがあります。お好みの音質となる向きで接続してください。

⚠ 付属の電源コード以外は使わないでください。火災や感電の原因になることがあります。また、長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜いておいてください。

G メンテナンス用端子 (UPDATE)

メンテナンスで使用します。弊社サービス部門の指示が無い限り、何も接続しないでください。

スピーカーの接続

スピーカーケーブルについて

- 接続には、市販のスピーカー専用ケーブルをお使いください。
- スピーカーケーブルはできるだけ短いものをご用意ください。ケーブルは長くなるほど抵抗値が増加し、ダンピング特性が劣化します。また、インダクタンスやキャパシタンスも増加し、高域の音質が劣化します。
- 左右のスピーカーケーブルは、同じ長さのものを使用してください。

⚠ 接続時の注意

- 全ての接続が終わってから電源プラグを差し込んでください。
- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- アンプ内蔵のサブウーハー等で、左 / 右のグランドが共通となっているものは、接続の状態によってはご使用いただけない可能性があります。

ご注意

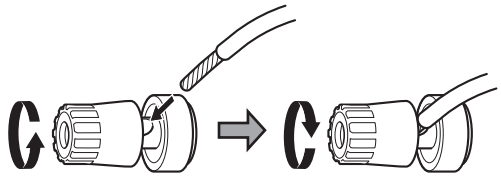
- 本機が対応しているスピーカーの公称インピーダンスは、出力モードが STEREO または BI-AMP のときは 4 Ωから 16 Ω、BTL のときは 8 Ωから 16 Ωです。これより低いスピーカーを使用すると、保護回路が働いて音が出なくなったり、場合によっては本機やスピーカーが故障する恐れがあります。
- 本機の赤い端子が ⊕、黒い端子が ⊖ になります。スピーカーケーブルのマークされている側を本機の ⊕ 端子に、もう片方のケーブルを ⊖ 端子に接続してください。
- スピーカーケーブルの先端の芯線が露出している部分が、他のケーブルや端子に接触するとショートすることがあります。
- スピーカーケーブルは絶対にショートさせないでください。
- 雑音を防ぐため、スピーカーケーブルは電源コードなどその他のケーブルと一緒に束ねないでください。

接続のしかた

1 スピーカーケーブルの被覆を約 1 cmむき、芯線をよくねじる。

2 接続端子のつまみを左に回して緩める。

3 芯線を端子ネジにある穴に挿入し、つまみを右に回してしっかり締め付ける。



- ケーブルの被覆が端子と接触しないように接続してください。

4 ケーブルを軽く引っ張り、しっかり挿入されているか確認する。

バナナプラグでの接続

市販のバナナプラグを使用して接続することもできます。スピーカーケーブルをバナナプラグに接続してから、プラグを端子に差し込みます。

- つまみを締めた状態でご使用ください。
- ご使用になるバナナプラグの説明書をよくお読みください。

⚠ 注意

本機には、音量調節機能がありません。このため本機にはプリアンプまたはプリアンプ機能がある DAC などを接続し、接続した機器側で音量を調節してください。出力音量が調節できない機器を接続して再生すると、音量調節ができず、大音量がスピーカーから出力され、聴覚障害や機器の故障の原因となることがあります。

重要

本機に UD-507、UD-505、NT-505、UD-503、NT-503 を接続するときは、ライン出力レベル設定 (LINE OUT LEVEL) を「VARIABLE」に設定してください。

本機は、出力モードスイッチ (OUTPUT MODE) の設定によって、2 チャンネルの内蔵アンプの使い方を変更できます。
以下に各モードでの接続例を記載します。

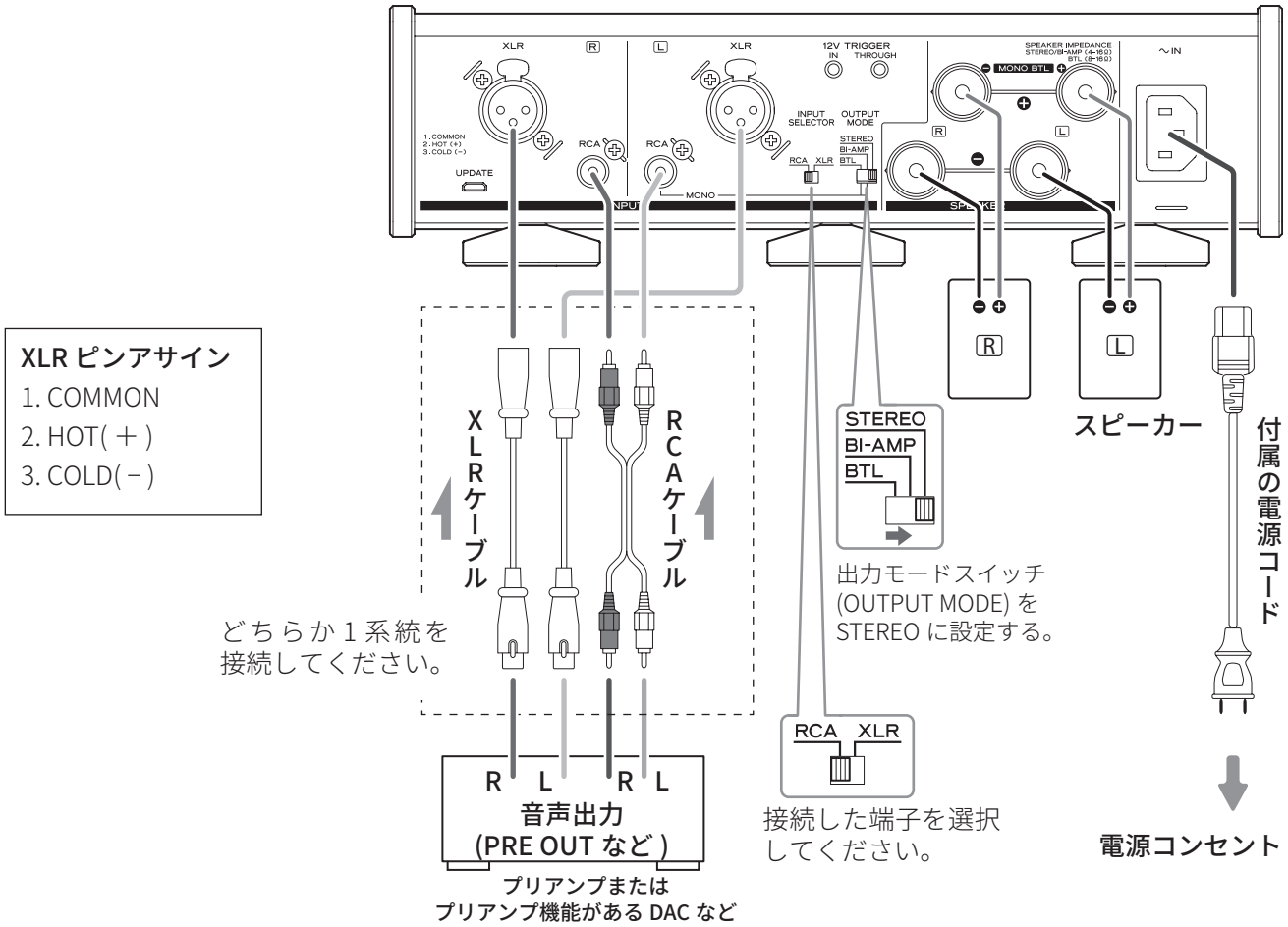
⚠ 全ての接続が終わってからスタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) を ON にしてください。

- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因となるため、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。
- 各プラグはしっかりと差し込んでください。

出力モードを STEREO で使う

出力モードスイッチ (OUTPUT MODE) を STEREO に設定します。

接続例



出力モードを BI-AMP で使う

本機を、モノラル バイ アンプとして使います。
L、R チャンネル用の出力モードスイッチ (OUTPUT MODE) を BI-AMP に設定します。

BI-AMP モードで、ステレオ再生するには、本機を 2 台使用します。

バイアンプ接続とは

スピーカーの LF（低域）と HF（高域）のそれぞれのユニットを独立したアンプで駆動する方法です。

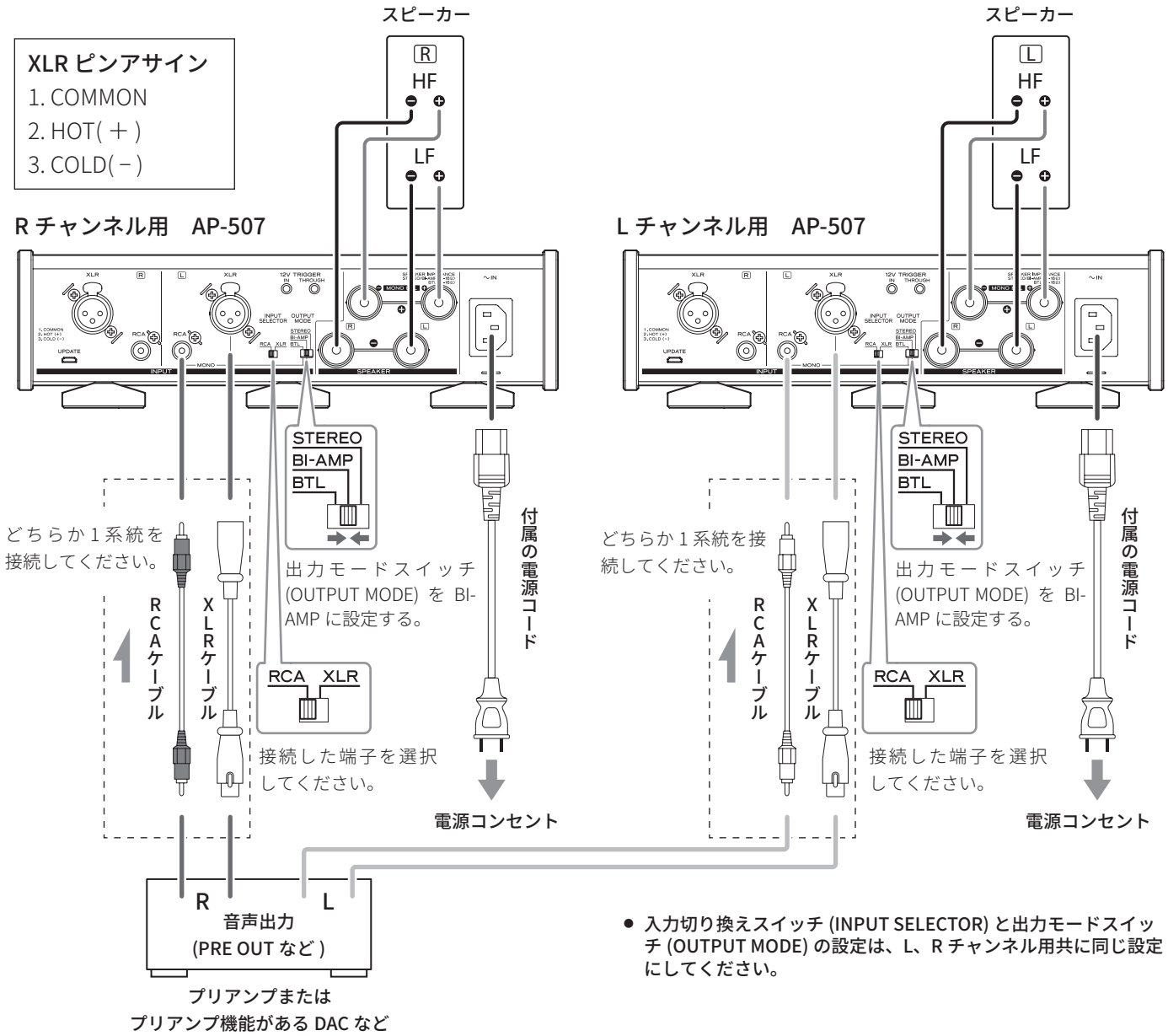
メモ

- アナログ音声入力 (INPUT) の L 端子に入力した音声が L、R 両方のスピーカー端子 (SPEAKER) から出力されます。
- BI-AMP モードの場合、アナログ音声入力 (INPUT) の R 端子に入力した音声は、スピーカー端子 (SPEAKER) から出力されません。

⚠ 注意

- LF(低域用)、HF(高域用) の端子がないスピーカーは、バイ アンプ接続できません。
- バイアンプ接続の場合には、スピーカーのショートプレート等を取り外し、スピーカーの ⊕ 端子同士、⊖ 端子同士の接続を切ってください。

接続例



- **入力切り換えスイッチ (INPUT SELECTOR) と出力モードスイッチ (OUTPUT MODE) の設定は、L、R チャンネル用共に同じ設定にしてください。**

出力モードを BTL で使う

本機を、モノラル BTL アンプとして使います。
L、R チャンネル用の出力モードスイッチ (OUTPUT MODE) を BTL に設定します。

BTL モードで、ステレオ再生するには、本機を 2 台使用します。

BTL 接続とは

1 チャンネルのスピーカーを 2 チャンネル分のアンプを使用して駆動します。インピーダンスの高いスピーカーで大出力を得たい場合に有効です。

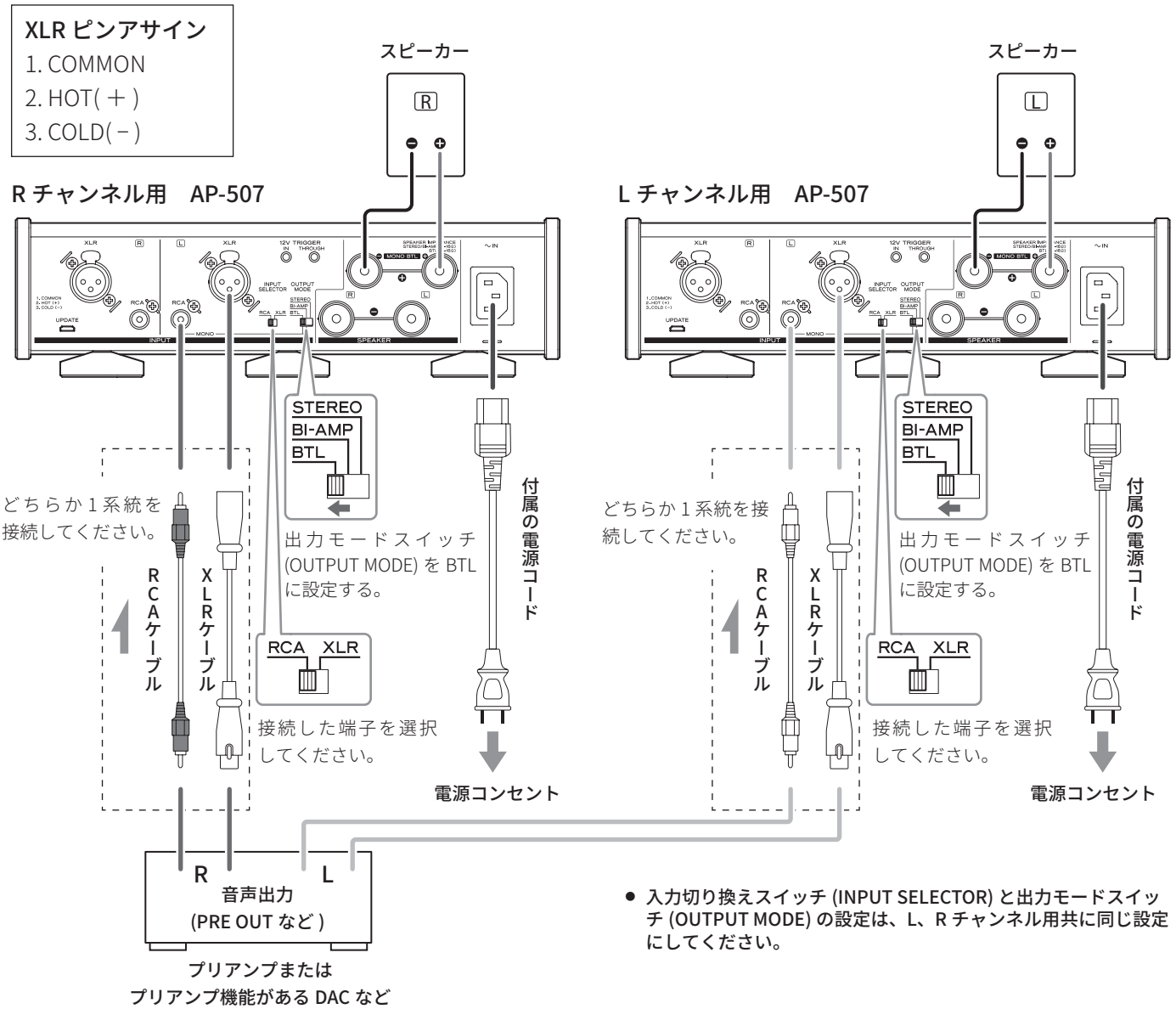
メモ

- アナログ音声入力 (INPUT) の L 端子に入力した音声が L、R 両方のスピーカー端子 (SPEAKER) から出力されます。
- BTL モードの場合、アナログ音声入力 (INPUT) の R 端子に入力した音声は、スピーカー端子 (SPEAKER) から出力されません。

⚠ 注意

- スピーカー出力 (SPEAKER) の ⊖ 端子には何も接続しないでください。

接続例



- **入力切り換えスイッチ (INPUT SELECTOR) と出力モードスイッチ (OUTPUT MODE) の設定は、L、R チャンネル用共に同じ設定にしてください。**

本機の電源を外部機器に連動させる（トリガー機能）

トリガー機能に対応した UD-507 やプリアンプなどと接続することにより、UD-507 やプリアンプなどの電源操作に本機の電源を連動させることができます。
接続には、市販のモノラルミニプラグケーブルをお使いください。

注意

トリガー機能を使用するには、本機のスタンバイ / オンスイッチ（STANDBY/ON）をオンにしてください。

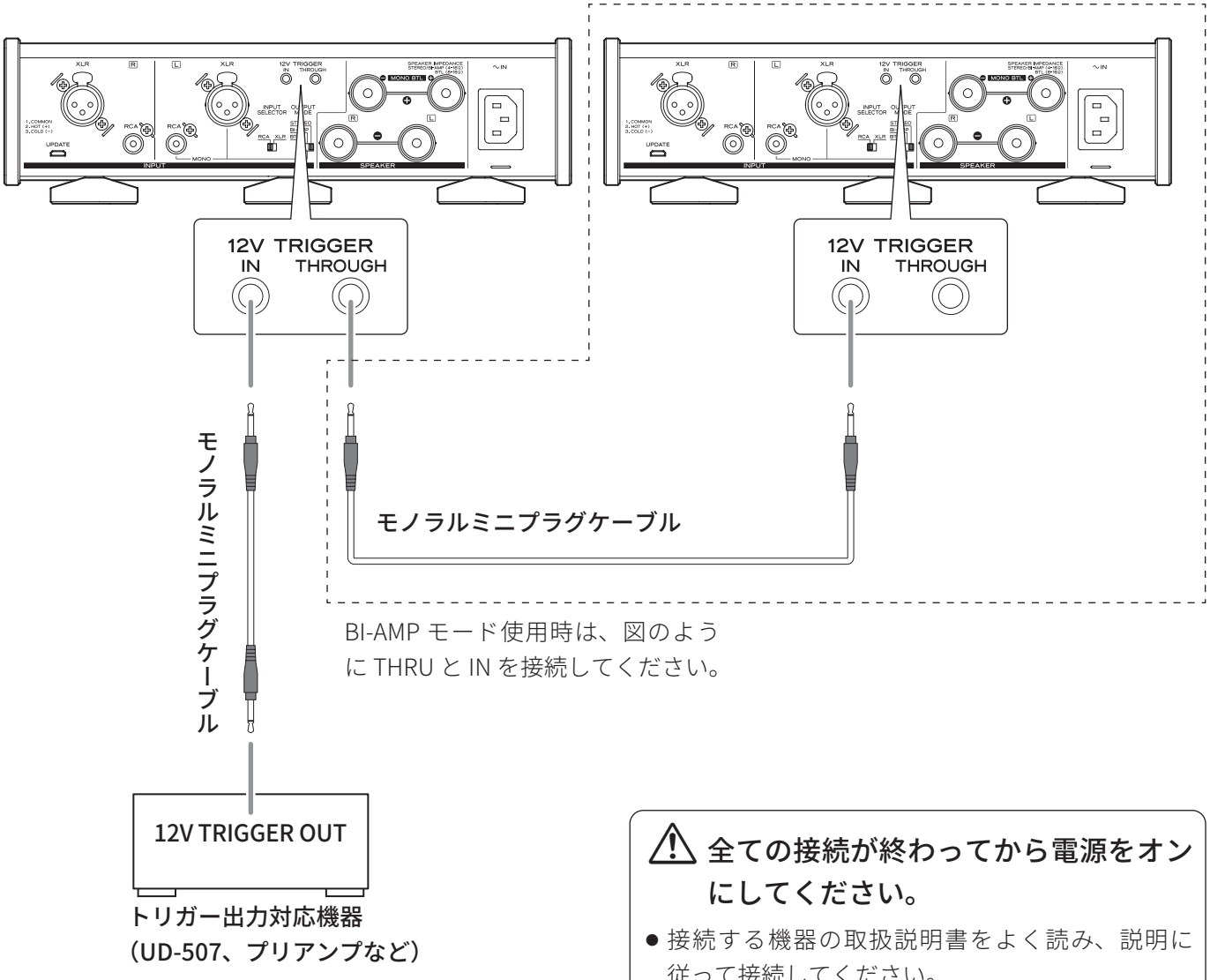
トリガー端子 (12V TRIGGER)

IN（イン）

プリアンプなどのトリガー出力端子に接続します。
プリアンプなどの電源操作に連動して、本機の電源がスタンバイまたはオンになります。

THRU（スルーアウト）

本機の IN（イン）端子に入力された信号がそのまま出力されます。
パワーアンプやサブウーハーなどの他のトリガー入力対応機器を接続することにより、電源を本機の IN 端子に接続した機器に連動させることができます。



BI-AMP モード使用時は、図のように THRU と IN を接続してください。

⚠ 全ての接続が終わってから電源をオンにしてください。

- 接続する機器の取扱説明書をよく読み、説明に従って接続してください。
- ノイズ発生の原因となるため、各接続ケーブルを電源コードと一緒に束ねないでください。
- 各プラグはしっかりと差し込んでください。

スピーカーを保護するために、本機を接続したシステムの電源のオン、オフをするには、次の順序で行ってください。

メモ

本機にプリアンプを接続した構成を前提に説明します。

UD-507、UD-505、NT-505、UD-503、NT-503 を接続する場合

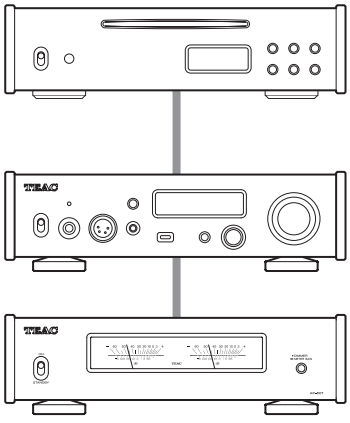
重要

あらかじめ UD-507、UD-505、NT-505、UD-503、NT-503 のライン出力レベル設定(LINE OUT LEVEL)を「VARIABLE」に設定してください。

メモ

- UD-507、UD-505、NT-505、UD-503、NT-503 がプリアンプに相当します。
- UD-507、UD-505、NT-505、UD-503、NT-503 を USB DAC として使う場合や NT-505、NT-503 をネットワークプレーヤーとして使う場合は、UD-507、UD-505、NT-505、UD-503、NT-503 がプリアンプおよびソース機器になります。

接続例



ソース機器

CD プレーヤーなどの音声出力機器

プリアンプ

プリアンプまたはプリアンプ機能がある DAC など

AP-507

電源オン

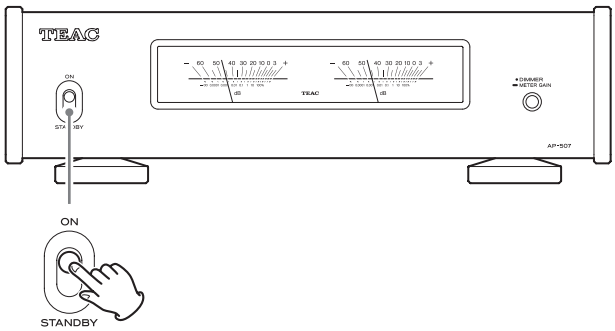
1 プリアンプの音量を最小にする。

電源オフ時に音量を調節できない機器の場合、電源をオンにしてから音量を最小にしてください。

2 ソース機器の電源をオンにする。

3 プリアンプの電源をオンにする。

4 本機の電源をオンにする。



レベルメーターが点滅し、消音機能（MUTE）がオンになります。アンプの動作が安定すると、点灯し消音機能（MUTE）がオフになります。

5 ソース機器を再生し、プリアンプで音量を調節する。

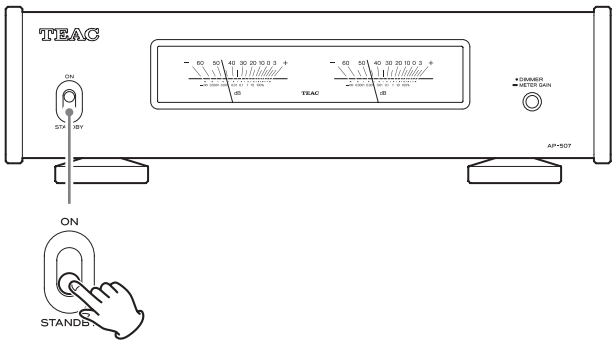
プリアンプの音量調節は、本機のレベルメーターが点滅から点灯にかわってから行ってください。

電源オフ

1 ソース機器が再生中の場合は、再生を停止する。

2 プリアンプの音量を最小にする。

3 本機の電源をスタンバイにする。

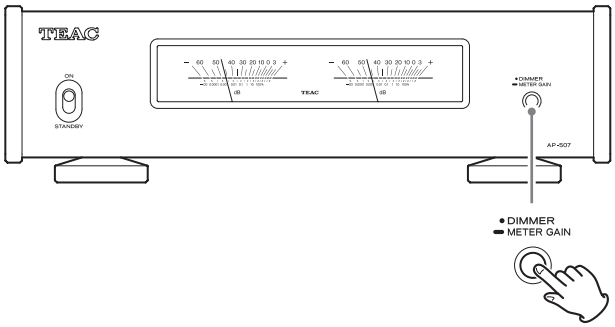


4 プリアンプの電源をオフにする。

5 ソース機器の電源をオフにする。

ディマー

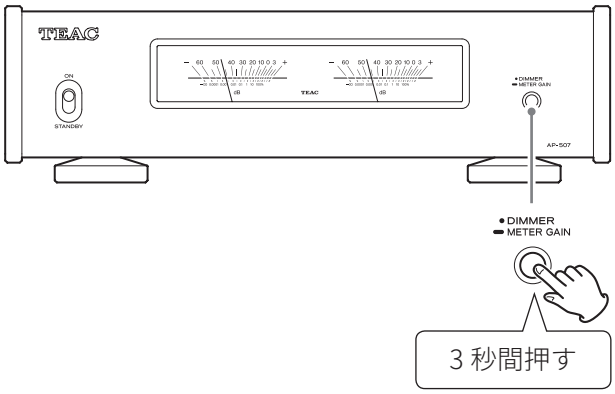
レベルメーターの明るさを変更します。
ディマー / メーターゲインボタン (DIMMER/METER GAIN) を押すたびに明るさが以下のように切り換わります。



メーター : 明
↓
メーター : 中
↓
メーター : 暗
↓
メーター : 消灯

レベルメーターの動作を切り換える

ディマー / メーターゲインボタン (DIMMER/METER GAIN) を 3 秒間押すたびに以下のように操作が変わります。



通常
↓
+20dB
↓
オフ

- レベルメーターの動作を +20dB にすると、通常のときより針の振れが大きくなります。

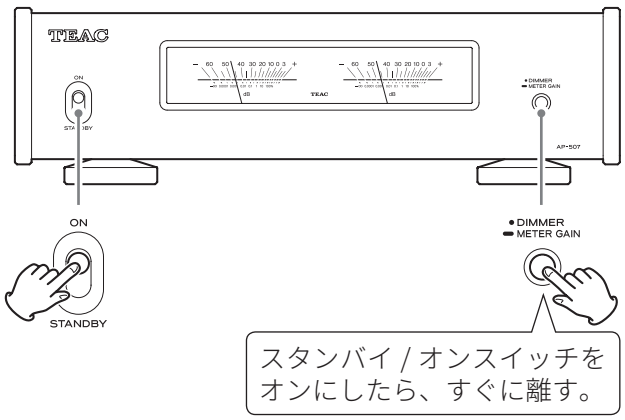
オートパワーセーブ

本製品には、オートパワーセーブ機能があります。
オートパワーセーブをオンに設定した場合、音声入力のない状態で、約 30 分以上操作しないと、スタンバイ状態になります。

オートパワーセーブのオン、オフを切り換える

1 ディマー / メーターゲインボタン (DIMMER/METER GAIN) を押しながらスタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) をオンにする。

2 スタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) をオンにしたら、すぐにディマー / メーターゲインボタン (DIMMER/METER GAIN) を離します。



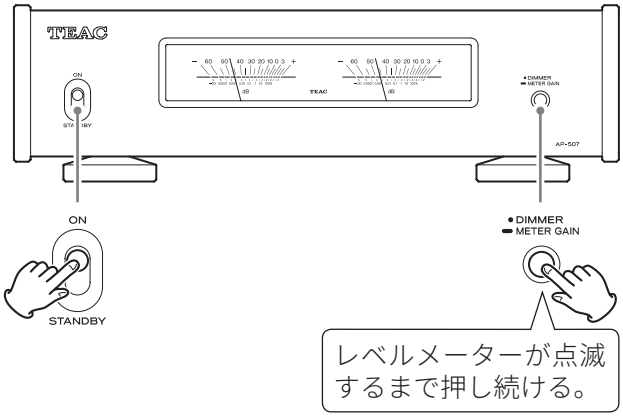
ディマー / メーターゲインボタン（DIMMER/METER GAIN）を離すと、オートパワーセーブのオン、オフが切り換わり、レベルメーターが点滅します。
オートパワーセーブの設定状態は、このときのレベルメーターの点滅で確認できます。

オートパワーセーブオン
３秒周期で点滅
オートパワーセーブオフ
0.4 秒周期で２回点滅後、３秒周期で点滅

各種設定を工場出荷時の設定に戻す

1 ディマー / メーターゲインボタン (DIMMER/METER GAIN) を押しながらスタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) をオンにする。

2 レベルメーターが点滅したら、ディマー / メーターゲインボタン (DIMMER/METER GAIN) を離す。



各種設定が工場出荷時の設定に戻り、レベルメーターが 0.4 秒周期で２回点滅した後、電源がスタンバイになります。

困ったときは

本機の調子がおかしいときは、サービスを依頼される前に以下の内容をもう一度チェックしてください。それでも正常に動作しない場合は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご連絡ください。

電源が入らない

➡電源コードがきちんと電源に接続されているか、差し込みが不完全ではないかを確認してください。コンセントがスイッチ式の場合、オンになっているか確認してください。

➡コンセントに他の電気機器を接続して、電気が供給されているかを確かめてください。

雑音がする

➡テレビや電子レンジなど、電磁波を出すものからはできるだけ離して設置してください。

ブーンというノイズが聞こえる

➡接続ケーブルの近くに電源コードや蛍光灯等がある場合は、本機からできるだけ遠ざけてください。

音が出ない

➡プリアンプの音量つまみ（VOLUME）で音量を調節してください。（13 ページ）

➡プリアンプの入力切換つまみで聴きたいソースを選んでください。（13 ページ）

➡外部機器の接続をもう一度確認してください。

➡リアパネルの入力切り換えスイッチの設定を確認してください。

レベルメーターの照明が点滅して音が出ない

➡スピーカーケーブルの ⊕ と ⊖ がショートしている可能性があります。スタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) を STANDBY にし、スピーカーとの接続を確認してください。

急に音が出なくなり、レベルメーターの照明が点滅している

➡温度上昇や過負荷などのために保護回路が動作したと考えられます。一旦スタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) を STANDBY にして、電源やスピーカーの接続を確認し、数分経ってから再度 ON にして下さい。

本体が高温になっている場合、壁や他の機器との間隔を広げて放熱をよくしてください。

オートパワーセーブにより電源がスタンバイになった

➡一旦スタンバイ / オンスイッチ (STANDBY/ON) を STANDBY にして、再度 ON にしてください。

無音時にレベルメーターが –∞ 付近に戻らない

➡ 静電気によってレベルメーターが振れることがあります。付属の除電クロスをメーター部分に当てて、静電気を除去してください。

アンプ部

実用最大出力
STEREO、BI-AMP 動作時 ..... 130W + 130W
(4 Ω、1kHz、JEITA)
90W + 90W
(8 Ω、1kHz、JEITA)
BTL 動作時 250W
(8 Ω、1kHz、JEITA)
定格出力
STEREO、BI-AMP 動作時 ..... 115W + 115W
(4 Ω、1% THD、1kHz)
70W + 70W
(8 Ω、1% THD、1kHz)
BTL 動作時 220W
(8 Ω、1% THD、1kHz)
スピーカー適合インピーダンス
STEREO、BI-AMP 動作時 ..... 4 Ω〜 16 Ω
BTL 動作時 ..... 8 Ω〜 16 Ω
全高調波歪率 0.0015%
(8 Ω、1kHz、12.5W、JEITA)
S/N 比 113dB
(8 Ω、1kHz、IHF-A)
周波数特性 ..... 10Hz 〜 50kHz (+0dB、− 5dB)
(8 Ω、1W、JEITA)
入力感度
RCA 端子 0.66V
(出力 8 Ω、1% THD)
XLR 端子 1.3V
(出力 8 Ω、1% THD)
入力インピーダンス
RCA 端子 ..... 50k Ω
XLR 端子 ..... 200k Ω

外部コントロール

トリガー入力 1
(3.5mm モノラルミニジャック)
入力レベル ..... 12V、1mA
トリガー出力 (スルー) 1
(3.5mm モノラルミニジャック)

一 般

電源電圧 ..... AC 100V (50/60Hz)
消費電力 106W
外形寸法 ..... 290mm x 84.5mm x 271mm
(WxHxD、突起部を含む)
重量 4.4kg
許容動作温度 ..... +5°C〜 +35°C
許容動作湿度 ..... 5% 〜 85% (結露のないこと)
許容保管温度 ..... − 20°C〜 +55°C

付属品

電源コード × 1
フット用クッション × 3
レベルメーター用除電クロス × 1
取扱説明書 (本書、保証書付き) × 1

- 仕様及び外観は改善のため予告なく変更することがあります。
- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

■ 保証書

取扱説明書の裏表紙が保証書になっています。保証書は、お買い上げの際に販売店が所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。万が一販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無償修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店・ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。保証期間はお買い上げ日より 1 年です。

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、この製品の補修用性能部品 (製品の機能を維持するために必要な部品) を製造打ち切り後 8 年間保有しています。

■ ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談、並びにご不明な点は、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にお問い合わせください。

■ 修理を依頼されるときは

16 ページの「困ったときは」に従って調べていただき、なお異常のあるときは使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店またはティアック修理センター (裏表紙に記載) にご連絡ください。

なお、本体の故障もしくは不具合により発生した付随的損害 (録音内容などの補償) の責についてはご容赦ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

修理料金の仕組み

技術料：故障した製品を正常に修復するための料金です。
測定機等の設備費、技術者の人件費、技術教育費が含まれています。

部品代：修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

その他：製品を送るために必要な送料 / 梱包料などがあります。

修理の際ご連絡いただきたい内容

型名：ステレオパワーアンプ
AP-507
シリアルナンバー：
お買い上げ日：
販売店名：
お客様のご連絡先
故障の状況 (できるだけ詳しく)

■ 廃棄するときは

本機を廃棄する場合に必要になる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

分解・改造禁止

この機器は絶対に分解・改造しないでください。
この機器に対して、当社指定のサービス機関以外による修理や改造が行われた場合は、保証期間内であっても保証対象外となります。

当社指定のサービス機関以外による修理や改造によってこの機器が故障または損傷したり、人的・物的損害が生じても、当社は一切の責任を負いません。

保証書

品名および形名	ステレオパワーアンプ AP-507	
機番		
保証期間	本体	1年

お買上げ日	年　月　日	
お客様	お名前	様
	ご住所	〒 電話　（　）

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買上げの販売店に修理をご依頼ください。

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

販売店	所在地　名称（印） 電話　（　）

見本

無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理いたします。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。
   無償修理の対象は、お客さまが日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品等でお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には保証期間内でも有料修理となります。
   (1) ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
   (2) お買上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
   (3) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
   (4) 接続している他の機器に起因する故障および損傷
   (5) 業務用の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
   (6) メンテナンス
   (7) 本書の提示がない場合
   (8) 本書にお買上げ年月日、お客様名、販売店名（印）の記入のない場合、あるいは字句を書き替えられた場合
5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行いたしませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※ この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの（保証責任者）、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

※ 保証期間経過後の修理、補修用性能部品の保有期間についての詳細は、取扱説明書をご覧ください。

ティアック株式会社　〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47　https://teac.jp/jp

この製品のお取り扱い等についてのお問い合わせ
AV お客様相談室 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
042-356-9235　携帯電話、IP 電話をご利用の場合
0570-000-701　ナビダイヤル　固定電話をご利用の場合
FAX：042-356-9242
受付時間は、10:00 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 です。
（土・日・祝日・弊社指定休日を除く）

故障・修理や保守についてのお問い合わせ
ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858
04-2901-1033　携帯電話、IP 電話をご利用の場合
0570-000-501　ナビダイヤル　固定電話をご利用の場合
FAX：04-2901-1036
受付時間は、9:30 ～ 12:00/13:00 ～ 17:00 です。
（土・日・祝日・弊社指定休日を除く）

● 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

1224 MA-3946A